

平成26年8月19日

平成26年度病虫害発生予報第5号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	いもち病(穂いもち)(注意報第2号) 紋枯病 縞葉枯病 トビイロウンカ(防除情報第7号) コブノメイガ 穂吸汁性カメムシ類(防除情報第8号)	- やや少 やや少 並 少 並	多 やや少 やや少 並 少 並
大豆	ハスモンヨトウ	並	並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>Glomerella cingulata</i>) (注意報第3号) 輪斑病 ハダニ類	並 やや多 やや多 並	並 やや多 やや多 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ	並 やや少 並 並	並 やや少 並 並
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	並 並	並 並
果樹共通	カメムシ類(技術情報第3号)	やや多	やや多
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 やや少 並 並 並 並 並	並 やや少 並 並 並 並 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

普通期水稻

1. いもち病(穂いもち)

平成26年8月18日付け、病虫害発生予察注意報第2号による。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(87筆)の結果、発病株率は0.5%(1.3%)、発

生圃場率は14.9%(20.0%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は1.0%(9.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(87筆)の結果、発病株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は6.9%(25.0%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生は認めていない(0.1%)。

ウ 8月上旬の巡回調査(87筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.3頭)、発生圃場率は64.4%(63.8%)であった。

エ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.3頭(0.3頭)、寄生株率は24.0%(16.8%)であった。

4. トビイロウンカ

平成26年8月19日付け、**病害虫発生予察防除情報第7号**による。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(87筆)の結果、食害株率は1.1%(11.1%)、発生圃場率は18.4%(77.7%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、食害株率は32.0%(27.0%)であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

平成26年8月19日付け、**病害虫発生予察防除情報第8号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は0.5%(5.3%)、株当たり虫数は0.0頭(0.7頭)、白変葉発生圃場率は40.0%(56.6%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、幼虫の寄生は認めなかった(寄生株率2.6%、株当たり虫数0.3頭)。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

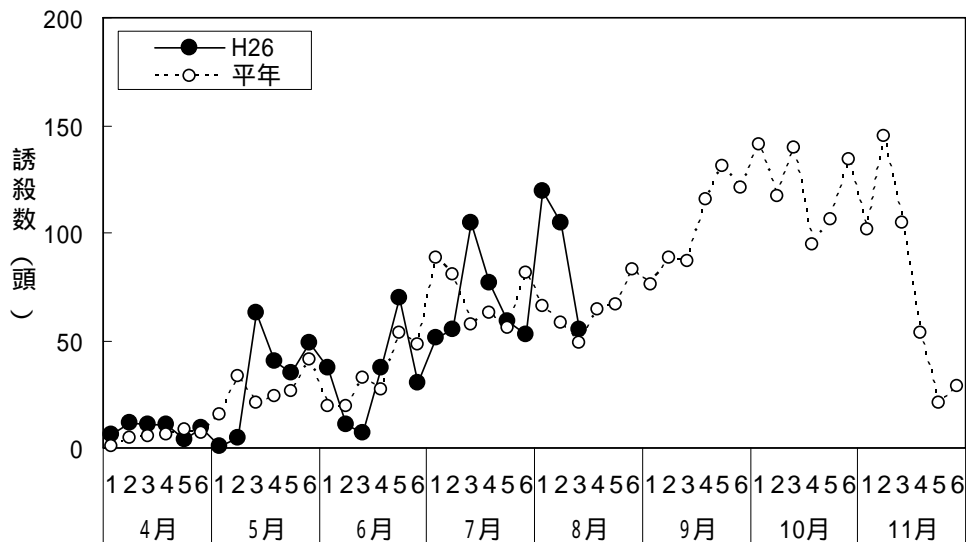


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越) (月・半旬)
 平年:H16~H25年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は6.1%(3.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

夏季の高温時は、白いカビは認められなくなることがあるが、病原菌は残存しているので、本圃へ病原菌を持ち込まないように育苗床での防除を徹底する。また、株冷する場合は入庫前の苗の選別と薬剤防除を徹底する。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

平成26年8月19日付け、病害虫発生予察注意報第3号による。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は13.6%(9.8%)、発生圃場率は57.6%(48.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

葉かぎした被害葉は伝染源となるので圃場外に持ち出し処分する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率6.1%(4.6%)、発生圃場率は33.3%(33.0%)であった。

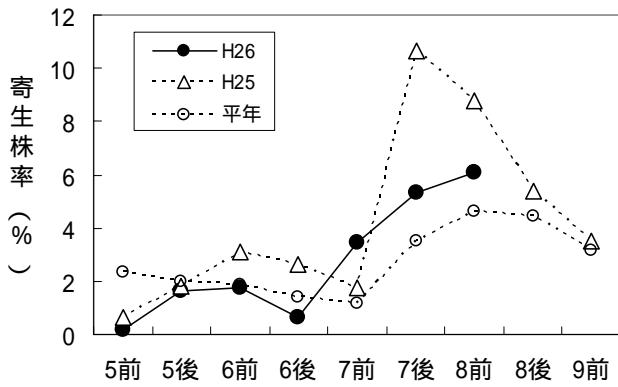


図 ハダニ類 寄生株率の推移

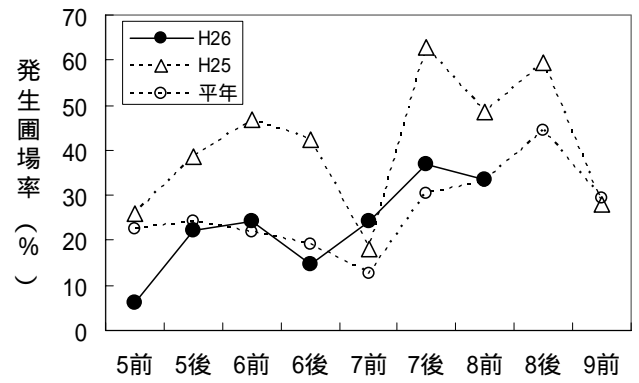


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は薬液が葉裏に十分付着するように丁寧に行う。
- イ 本圃に持ち込まないよう育苗床での防除を徹底する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(11筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm × 22.5cmの白色板に5回 × 10ヶ所)は5.6頭(過去7カ年平均13.1頭)、発生圃場率は54.5%(過去7カ年平均73.8%)であった。

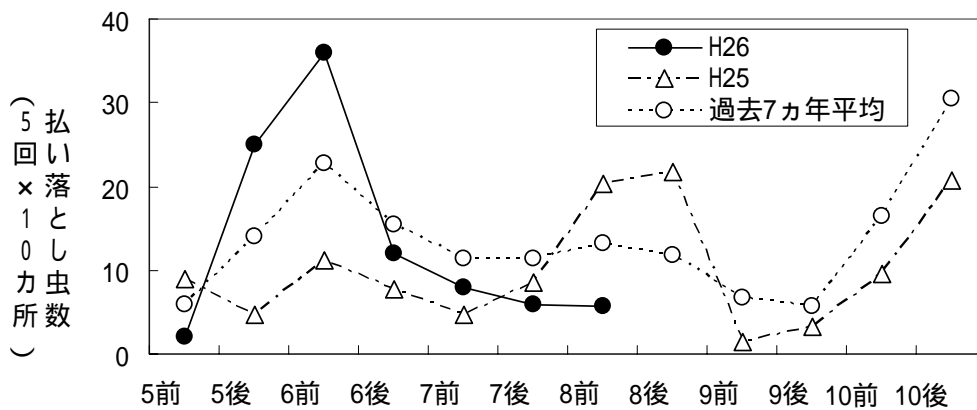


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.5%)、発生圃場率は5.6%(20.9%)であった。発病果率は0.4%(0.3%)、発生圃場率は11.1%(9.0%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、一部に多発生の圃地を認めたが、発病果率は2.7%(4.6%)、発生圃場率は19.4%(35.5%)であった。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は11.7%(13.1%)、発生圃場率は66.7%(56.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性の低下を防ぐために、同一成分の薬剤の使用は年間一回に止め、繰り返し使用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は3.1%(1.0%)、発生圃場率は30.6%(18.9%)であった。果頂部の被害果率は0.9%(0.7%)、発生圃場率は11.1%(12.5%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。

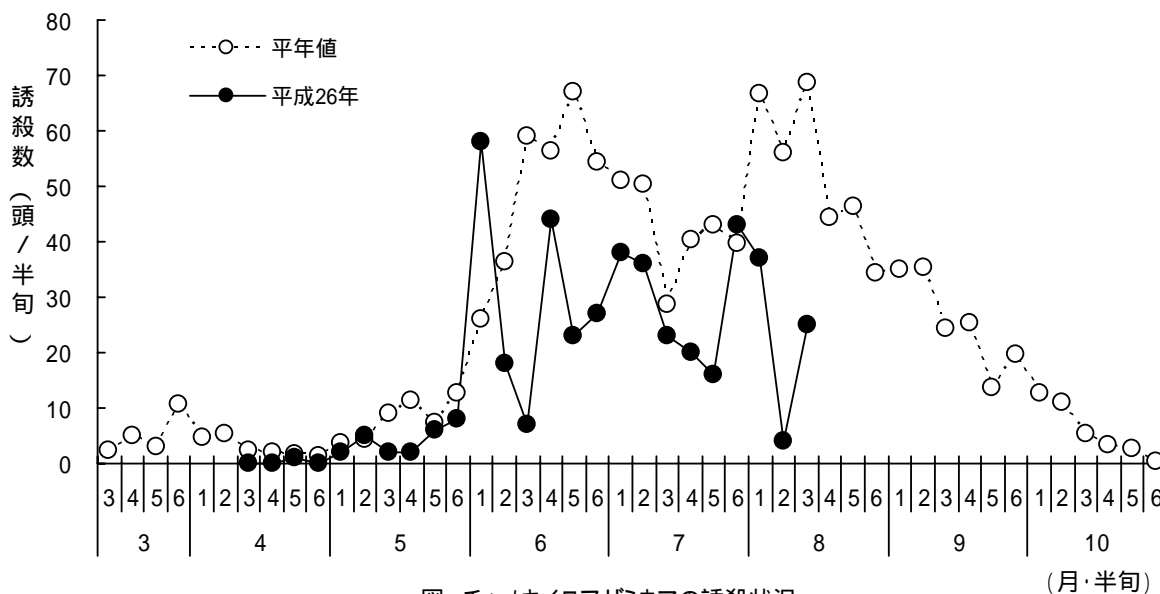


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表に示した発生ピーク予測日を参考にして適期に防除する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第6世代	8/23	8/24	9/3	8/25	9/7	8/22
" (前年)	8/16	8/18	8/28	8/19	9/1	-
第7世代	9/10	9/12	9/25	9/12	9/30	9/8
" (前年)	9/2	9/4	9/17	9/6	9/22	-
第8世代	10/1	10/6	10/24	10/4	11/3	9/29
" (前年)	9/22	9/23	10/10	9/26	10/17	-
標高(m)	27	4	43	10	58	27

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2014年8月17日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い圃では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は2.6%(3.5%)、発生圃場率は50.0%(49.6%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率は1.0%(0.1%)、発生圃場率は20.0%(8.0%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

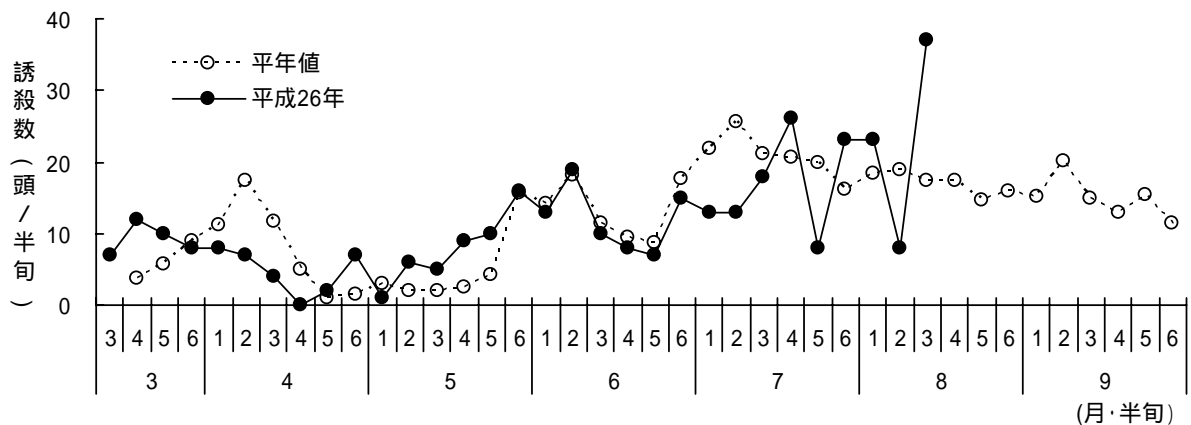


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

せん定跡に食入しやすいので、せん定や芽かき後には必ず防除する。

果樹共通

1. カメムシ類

平成26年8月19日付け、病害虫発生予察技術情報第3号による。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は2.3枚(2.7枚)、発生圃場率は55.0%(46.9%)であった。

2. チャノキイロザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は11.2頭(24.2頭)、発生圃場率は95.0%(86.3%)であった。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.1枚)、発生圃場率は10.0%(14.5%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)はやや多く推移している(図)。

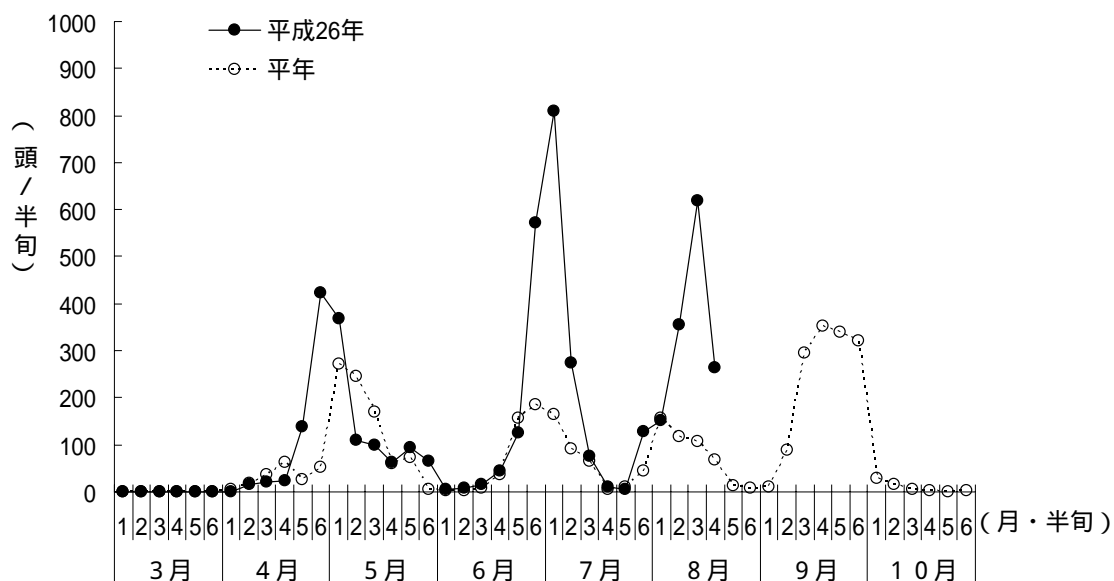


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.3枚(0.1枚)、発生圃場率は25.0%(12.3%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

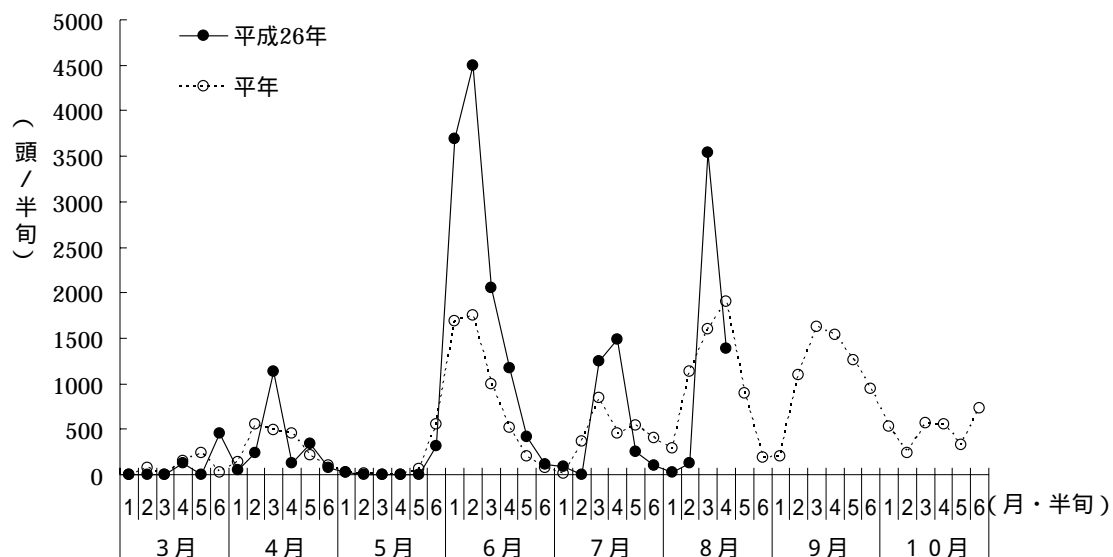


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.3%(0.5%)、発生圃場率は10.0%(14.5%)であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.4頭(2.7頭)、発生圃場率は60.0%(55.8%)であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は7.0%(8.6%)、発生圃場率は55.0%(38.1%)であった。

【参考】
気象

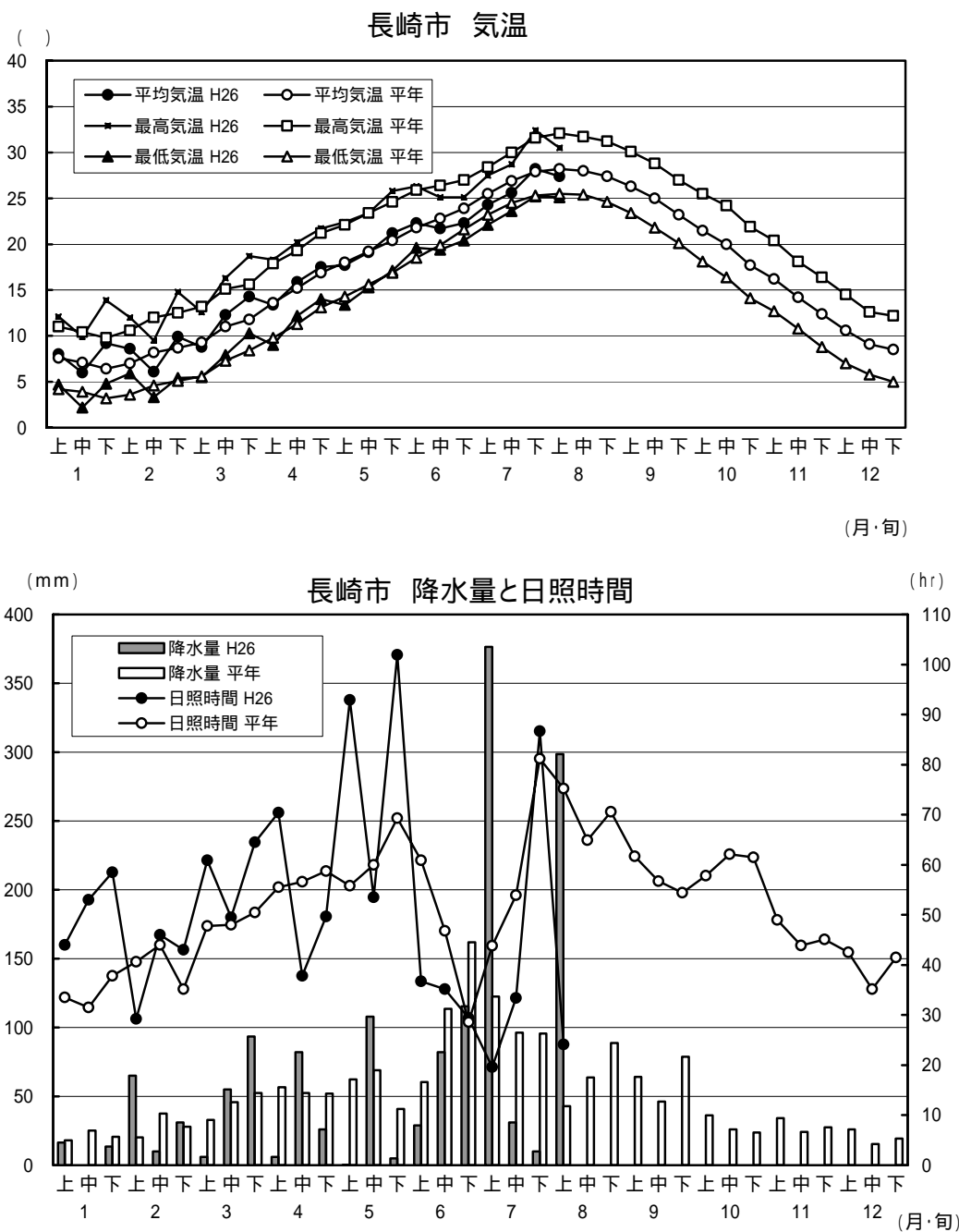
(平成26年8月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40	40	20
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

予報対象地域：九州北部地域

平成26年の気象経過 (長崎地方気象台)



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027